

生体牛の評価の試行結果(オーストラリア)【暫定版】

生体牛リスクの総括(オーストラリア)

<侵入リスク>

	1986-1990	1991-1995	1996-2000	2001-2005	2006-
生体牛	非常に低い	無視できる	無視できる	無視できる	無視できる
肉骨粉	無視できる	無視できる	無視できる	無視できる	無視できる
全体	非常に低い	無視できる	無視できる	無視できる	無視できる

<暴露・増幅リスク>

暴露・増幅リスク	高い	中程度	低い
	1986	1997	2002
			2007

<サーベイランスによる検証等>

1997年まではパッシブサーベイランス、1998年からはアクティブサーベイランスを実施。
 アクティブサーベイランスでは「臨床的に疑われる牛」を中心に、「死亡牛」及び「不慮の事故によると畜牛」も対象にしており、100万頭の成牛のうち最低1頭にBSEが存在したとして、99%の信頼性でそれを検知できるように計画(OIEのサーベイランス要件に一致)。
 BSE認知プログラムは1980年代後半より存在。

母集団数(2006年) 合計約2200万頭 (肉用牛約1958万頭、乳用牛約188万頭、種畜約牛72万頭)

サーベイランスの成績(直近3年間)					
年次	通常と畜牛	死亡牛	不慮の事故による と畜牛	臨床的に疑われる牛	合計
2004	0	201	220	445	866
2005	0	718	1,587	482	2,787
2006	0	641	760	497	1,898

*2007年のデータは年間的一部分のみのデータであるため、ここでは転載しなかった。

生体牛の侵入リスク(オーストラリア)

			1986-1990	1991-1995	1996-2000	2001-2005	2006-	合計
			輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数
輸入実績	英国	回答書	38					38
		貿易統計						
	欧州(中程度汚染国)	回答書	158	28				186
		貿易統計	(25トン)	(9トン)				(34トン)
	欧州(低汚染国)	回答書	33	71	24			128
		貿易統計	6		24	198		228
	米国	回答書		301	276	74		651
		貿易統計		1,052	777	35		1,864
	カナダ	回答書	1,030	186		7		1,223
		貿易統計	229		1	7		237
	その他(日本)	回答書			24			24
		貿易統計						
合計	回答書	1,259	586	324	81	0	2,250	
	貿易統計	235	1,052	802	240	0	2,329	

		1986-1990		1991-1995		1996-2000		2001-2005		2006-		合計	
		頭数	英国換算	頭数	英国換算	頭数	英国換算	頭数	英国換算	頭数	英国換算	頭数	英国換算
暴露要因となつた可能性のある輸入牛※	英国	13	7.17									13	7.17
	欧州(中程度汚染国)	74	0.74	13	0.13							87	0.87
	欧州(低汚染国)	15	0.02	56	0.56	24	0.24					95	0.82
	米国			301	0.01	56	0.00	15	0.00			372	0.01
	カナダ	1,030	0.1	186	0.02			1	0.00			1,217	0.12
	その他()												
	合計	1,132	8.03	556	0.72	80	0.24	16	0.00	0	0.00	1,784	8.99
		非常に低い		無視できる		無視できる		無視できる		無視できる			

※ 回答書添付資料(オーストラリアのリスク評価書)等に基づき、リスク考慮対象外と考えられる頭数は除外した数字を使用した。

注) 輸入実績及び暴露要因となつた可能性のある輸入牛については、加重係数を設定した期間の輸入頭数のみを記載している。

肉骨粉の侵入リスク(オーストラリア)

			1986-1990	1991-1995	1996-2000	2001-2005	2006-	合計
			輸入トン数	輸入トン数	輸入トン数	輸入トン数	輸入トン数	輸入トン数
輸入実績	英国	回答書						
		貿易統計						
	欧州(中程度汚染国)	回答書						
		貿易統計				26		26
	欧州(低汚染国)	回答書						
		貿易統計			43			43
	米国	回答書						
		貿易統計			846	16		862
	カナダ	回答書						
		貿易統計			163			163
	その他()	回答書						
		貿易統計						
	合計	回答書	0	0	0	0	0	0
		貿易統計	0	0	1,052	42	0	1,094

		1986-1990		1991-1995		1996-2000		2001-2005		2006-		合計	
		トン数	英国換算	トン数	英国換算	トン数	英国換算	トン数	英国換算	トン数	英国換算	トン数	英国換算
暴露要因となつた可能性のあるMBM※	英国												
	欧州(中程度汚染国)												
	欧州(低汚染国)												
	米国												
	カナダ												
	その他()												
	合計	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
		無視できる		無視できる		無視できる		無視できる		無視できる			

※回答書によると、MBMの輸入はニュージーランドとオーストラリア(再輸入)のみであり、暴露要因となつた可能性のあるMBMの輸入は無し(1966年以降、GBRⅢ、Ⅳの国からのMBMの輸入は行われていない)。

注)輸入実績及び暴露要因となつた可能性のあるMBMについては、加重係数を設定した期間の輸入トン数のみを記載している。

生体牛の暴露・増幅リスク（オーストラリア）

○飼料給与

1996年：反すう動物由来肉骨粉の反すう動物への給与禁止（自発的）
1997年：反すう動物由来肉骨粉の反すう動物への給与禁止（義務的）
1999年：特定の哺乳動物由来肉骨粉の反すう動物への給与禁止
2001-2002年：全てのせき椎動物由来原料の反すう動物への給与禁止

○SRMの利用実態

SRMは健康と畜牛の約半分、死廃牛の約20%が飼料に利用される。

○レンダリングの条件

大部分は大気圧下で実施されており、OIE基準（133℃/20分/3気圧）で行っているのは3%程度

○交差汚染防止対策

2006年のデータでは、飼料製造施設の約70%が専用化されており、残りの混合施設ではライン分離やライン洗浄などが行われている。
レンダリング施設は商業的な判断により、多くが特定の種毎に専用化されている。

<暴露・増幅リスク>

	飼料給与の状況	SRMの利用実態、レンダリングの条件、交差汚染防止対策	判定
1986-1996	特に規制無し	-	高い
1997-2001	反すう動物由来MBM→反すう動物の給与禁止	-	中程度
2002-2007	哺乳動物由来MBM→反すう動物の給与禁止	-	低い